

## 鍋 割 山 山 行 記 録



ヒノキ植林地



荒山高原から山頂方向



鍋割山山頂

目的地	赤城・鍋割山	期 日	平成23年2月23日(水)・晴れ
山人	笠原正雄、小方信義・宮路信幸	特 記	湯檜曾温泉飲み会の前に登る。

地 点 名	時 刻	記 事
与 板 発	午前7:00	小千谷から高速に入る。沼田で一般道からR251の赤城道路を経て登山口を目指したが、昭和村の赤城道路の入口から赤城山頂間は冬季閉鎖となっていた。道路標識に従い、赤城南面道路を進む。結局、赤城山の山裾を半周した格好である。
箕輪姫百合 P	10:50 発	数台駐車あり。路面の凍結は解けていた。山道に入るとまだ雪は硬い。長靴を滑らせぬように慎重に登る。単独年配女性が立ち止まって軽アイゼンを着けていた。
十 字 分 岐	11:05	ヒノキ植林地の登山道には薄く雪が付いている。凍っているところは無い。ヒンヤリとするものの日差しを受ければ暑くなる。
荒 山 高 原	11:30	山頂方向を望むが、頂きは手前のピークの向こうだ。雪が解けた所の地面は黒くぬかるんでいる。しばらく進むと途中までと言う単独男が下って来た。道脇に温度計が吊り下げられていたが、6℃を示していた。
展 望 地	11:50	山座盤がある。浅間山から苗場山、谷川連峰が雪をまとって良く見える。
雪 の 道	12 時前後	喬木帯の尾根道に雪が積もっている。多い所では80cm位だろう。尾根の南側は雪解けが進んで地面が出ている。数隊、数人とスライド。
鍋 割 山 山 頂	12:10~13:30	女性2人組と単独女がいた。雪の無い南斜面の草地に陣取る。風も殆ど無く、フリースを羽織れば寒さはしのげる。栃尾あぶらげ入りのキムチ鍋でランチ。小方さんに運転をお願いし、ビール少々とワンカップ2本を飲む。運転手付の山はたまらないネ。 この間に、登り始めて追い越した単独年配女は登頂を果たして下って行った。ここにも温度計があって、12℃となっていた。温度が上りすぎてか、前橋市外は霞んで見える。
荒 山 高 原	14:20	左折して同じ道を下る。
箕輪姫百合 P	14:55 着	R17 に下り、永井食堂のモツ煮を買って湯檜曾温泉に向かう。途中で見える真っ白な谷川岳が美しい。

あまりにもいい天気だったので、すぐに終わってしまう山ではもったいなかったかなと思った。しかし、宮路さんは若いうえに多少山経験があり問題ない。しかし、小方さんは昨年一緒に浅草岳と谷川岳に行ったのみでそれ以外に山経験は無い。従って、この3人で登るのであれば、季節も考えてこの程度で良いのかも知れない。

鍋の材料刻みで朝早かったせいで、宿では、夕食後すぐに眠ってしまった。7時半頃だったと思われる。